



kamiya#295 ドル/円と米金利 2020/6/18

ドル/円為替レートは、短期的には米金利と連動する。

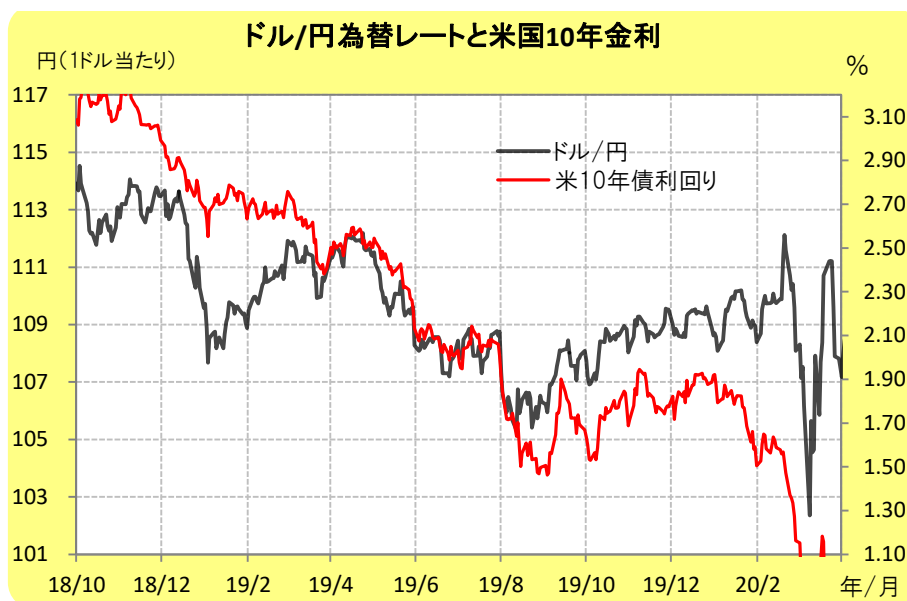
本来的には、米日金利差と連動するのであろうが、日本の金利は長く硬直的（殆ど動かない）なので、①米日金利差の動きは米金利の動きとほとんど同じになる、②為替市場参加者は、もはや日本の金利動向は注意を払わず、専ら米国金利動向を見ている。

ドル/円為替レートと米金利に因果関係があるというよりは、同じファクターに反応するので、同じ動きになっていると思われる。

そして、時折、米金利の動きとは離れて、他の要素で相場は大きく動く。他の要素とは、インフレ格差や貿易収支などだろう。たぶん、長期的な相場水準はそのようなもので決まっているのだろう。

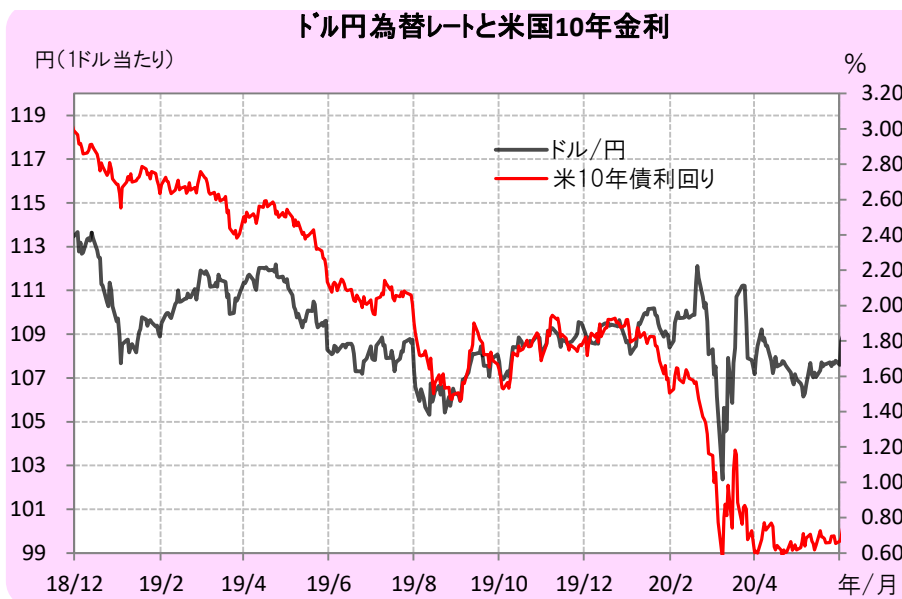
今回は、最近の動向を見ておく。

2019年4月から8月13日までのドル/円為替レートと米10年金利が連動は次のとおりである。



しかし、8月14日、米金利が低下する一方、ドル/円為替レートは堅調だった。

そして、8月15日から12月末まで両者の関係は次のとおりである。



今年1月に入って米金利は急低下するも、ドル/円為替レートは横ばいだった。
 1月の米10年国債利回りは、1.9%台から1.5%台まで低下。2020年は、
 米国がイラン革命防衛隊司令官を殺害するという衝撃的な事件で幕を開け、
 国債が買われた。月末にかけては、新型肺炎の感染拡大が世界景気の重荷に
 なるとの観測が広がったことでさらに国債が買われた。

その後、超短期（1日～数日）的な連動を繰り返し、今は概ね次のようになっている。



この間大きな変化があった。3月には大幅利下げでゼロ金利政策と量的緩和政策を
 復活させ、4月には短期債や中期債の利回りに上限を設ける新たな政策目標を検討
 したようだ。要は、米国金利も硬直的になってきているということだ、



日本の金利も硬直的、米国の金利も硬直的となれば、通常時はドル/円為替相場も硬直的で、時折、他の要素で相場が大きく動くということになりそうだ。

今までは、ドル/円為替レートと米金利の連動が乖離するたびに、ドル堅調の方向に乖離したが、今後はどうだろうか？

今は、これ以上は no idea だ。

以上